

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18402021

研究課題名（和文） ロシアにおける外国人労働者管理と国内労働市場の変化

研究課題名（英文） Russia's Foreign Labor Management and its Impact on Domestic Labor Market

研究代表者

堀江 典生 (HORIE NORIO)

富山大学・極東地域研究センター・教授

研究者番号：50302245

研究成果の概要：本研究では、2002年に大きな移民政策転換の結果生まれたロシアの外国人労働者管理が、ロシアの国内労働市場にどのようなインパクトを与えたのかを、国内労働市場政策、移民政策、地域経済政策、ソフトな安全保障論、移民送り出し国の観点から検証した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2007年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総計	4,500,000	1,350,000	5,850,000

研究分野：ロシア経済論

科研費の分科・細目：社会科学・経済政策

キーワード：ロシア、中国、移民問題、外国人労働者、極東、北東アジア、国境

## 1. 研究開始当初の背景

2002年になってから新しい「外国人地位法」の導入により、ロシアは外国人移民に対し非常に厳しい移民政策を適用できるようになった。国内労働市場における自国民優先の原則のもとに、外国人労働許可制、外国人雇用許可制、および外国人労働割当制を導入し、内務省管轄の連邦移民局による強力な外国人労働者管理を行うようになった。しかし、一方で、ロシアは人口減少に悩み、シベリアやロシア極東地域に対する十分に考慮された地域政策の指針を持たないまま、若年労働力および高学歴労働力のロシア中央部への流出および海外流出を許し、地域の潜在力をますます逡減させている。失業の脅威に悩んだ90年代とは異なり、労働力不足が地方に

おいて顕在化し、外国人労働力抜きには地域経済発展を望めない状況になっていると言える。本研究では、ロシアの移民問題を労働市場との関係において考察し、中国人移民問題の今日的課題とロシアの外国人管理の課題を検討することとした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、2002年に大きな移民政策転換の結果生まれたロシアの外国人労働者管理が、ロシアの国内労働市場にどのようなインパクトを与えたのかを、国内労働市場政策、移民政策、地域経済政策、ソフトな安全保障論、移民送り出し国の観点から検証することを目的としている。2002年になってから新しい「外国人地位法」の導入により、

ロシアは外国人移民に対し非常に厳しい移民政策を適用できるようになった。国内労働市場における自国民優先の原則のもとに、外国人労働許可制、外国人雇用許可制、および外国人労働割当制を導入し、内務省管轄の連邦移民局による強力な外国人労働者管理を行うようになった。しかし、一方で、ロシアは人口減少に悩み、シベリアやロシア極東地域に対する十分に考慮された地域政策の指針を持たないまま、若年労働力および高学歴労働力のロシア中央部への流出および海外流出を許し、地域の潜在力をますます減滅させている。失業の脅威に悩んだ 90 年代とは異なり、労働力不足が地方において顕在化し、外国人労働力抜きには地域経済発展を望めない状況になっていると言える。本研究では、ロシアの移民問題を労働市場との関係において考察し、中国人移民問題の今日的課題とロシアの外国人管理の課題を検討することとした。

### 3. 研究の方法

ロシアの外国人労働者管理問題については、我が国に十分な資料が存在しているわけではなかった。そのため、関連機関へのインタビュー調査、および関連機関にある資料の閲覧がもっとも大きな課題となっていた。

また、国境辺境地域の現地視察・調査を本研究においては重視した。本研究において、アプローチとして特徴的であるのは、地方を重視した調査であるからである。多くの外資企業が存在するロシア・ヨーロッパ部と、シベリアおよび極東地域における外国人労働者の受入は、それに起因する問題や対策も大きく異なる。国境を接する辺境地域に特に調査を集中させる理由は、そこにある。

さらに、現地での研究成果報告を重視することにより、我が国における本研究と問題が発生している現地との認識の違いをより鮮明に実感し、その違いから学ぼうと考えたためである。

上記の研究方法を効率的に実施するために、研究グループを 3 班に分けて、研究計画を実施した。

第 1 班は、研究総括および移民政策研究班である。第 1 班の役割は、ロシアの移民政策および外国人管理問題について深く掘り下げた研究を行うとともに、他の班から提出された研究成果を総括する役割である。第 2 班は、中ロ地方自治体国際関係分析およびロシア極東地域資料分析を研究する班である。主に、ロシアの地方自治体の国際関係を研究する班として活動した。第 3 班は、移民送り出し国としての中国からロシアを観察する役割を担う班である。いわば、中国の視点から中ロ国境貿易と移民問題を観察する役割をもつ。

こうした 3 班構成によって、それぞれの適切な研究成果を蓄積することにより、本研究課題に答えようとした。

### 4. 研究成果

本研究の成果は、研究方法においても述べたように、3 班構成によって、ロシアの外国人労働者管理、中ロ地方自治体国際関係分析、中国の視点からの中ロ経済連携および移民問題を調査することで形成された。ここでは、それぞれの班の代表である堀江典生、堀内賢志、馬紅梅の成果を概説したい。

(1) 堀江典生は、主にロシアの外国人労働者管理の制度上の問題、特に、2007 年 1 月以降の移民関連諸法の変更による外国人労働者の受入体制の変化を観察した。

2002 年にまずロシアは、移民政策の大きな転換点を迎えた。その新しい移民政策は、移民の脅威に対抗するものであった。そのため、国家安全保障を重視した移民政策と規制が行われているが、人間の安全保障、特に移民たちの安全・安心への配慮は少ないものとなった。特に、内務省連邦移民局へ移民管理から保護にいたるまでのすべての権限を付与したことは、移民管理における国家安全保障の重視を示す者としてとらえられ、本来相克するはずの労働省関連機関の役割が交代したことを示していた。

一報、中国人移民がロシアの極東地域において大きな脅威となっていた。しかし、その脅威は現実を照らし合わせたものであるとはいえず、冷静な分析に基づく現状認識が必要であった。ロシア極東地域での資料集種やフィールドワークからえた知見を照会しながら、中国人移民に対する脅威の神話性を提示した。

また、中国人出稼ぎ労働者や旧ソ連諸国からの出稼ぎ労働者だけでなく、高度人材を送り出す西欧諸国や我が国にとっても、ロシアの外国人労働者管理は、厳しいものであった。2007 年 1 月以降の移民関連諸法の改正は、主に旧ソ連諸国からの出稼ぎ労働者の外国人労働者関連手続きの簡素化を実現させたものの、西欧諸国や我が国を含む非 C I S 諸国からの高度人材の受入体制は、単純労働者の受入体制と変わりなく、時間とコストのかかる制度のままとなった。

結局、ロシアの外国人労働者管理は、旧ソ連諸国からの出稼ぎ労働者の手続き上の簡素化を実現させたものの、その不法移民化に対する抜本的な対策は十分に講じられず、本来簡素化すべき高度人材の受入体制に対しては無策なままとなっている。

(2) 堀内賢志は、ロシア極東地域の開発計画に着目した調査を行った。というのも、本研究が始まってすぐに 2012 年の APEC サミットのウラジオストク開催が現実的な計

画として議論の俎上により、本研究プロジェクトとしても、このAPECサミットに合わせたロシア極東の開発に着目しないわけにはいかなかったためである。堀内賢志の研究成果は、以下のとおりである。

堀内賢志は、ロシア東部の移民問題に関する重要なファクターとしてある、ロシア極東地域開発政策の方向性と現状に関する調査を主として行った。同地域の開発は、2006年末以降、ウラジオストクAPEC開催が表明され、また同地域の開発を担当する国家委員会の創設、国家財政からの大規模投資を盛り込んだ開発プログラムの策定、中央地方関係や地域政策の改革などが進められる中で、本格的に軌道に乗せられることになった。中央政府は、同プログラムの実現に当たって直面した財政その他の問題に対処し、従来にはなかった責任ある態度で同地域の開発を推進しつつある。

このプログラムにも掲げられているように、中央政府の主導によるこうした極東地域開発への積極的な取り組みの背景には、「アジア太平洋地域におけるロシアの地政学的利益と安全保障」を追求するという目的意識がある。このため、人口の少ない極東地域での開発において生じる労働力不足の問題に対しては、ロシア全体の移民政策と同様、CIS諸国以外の外国人移民、とりわけ中国からの移民を厳しく規制する方針が採られている。現在策定中の極東開発長期戦略の草案でも、中国東北部とロシア極東地域との人口・経済レベルにおける格差が「ロシア連邦の経済的独立と領土の一体性への直接的な脅威」となっているという認識が示され、労働力として誘致すべき移民の大部分はロシアの他地域やCIS諸国からの移民とし、中国人移民の数は厳しく限定すべきだとされている。

金融危機や原油価格の下落といった状況の下でプログラムの実施は改めて困難に直面しているが、上記のような労働力誘致の施策も非現実的であり、結局は中国人を初めとする外国人労働力をいかに利用するかという問題になってくるという指摘する識者もいる。ロシアの北東アジア、アジア太平洋地域に対する本格的な戦略は、緒についたばかりであり、今後それがより具体化し進展していく中で、合理性を欠くナショナリスティックな政策や行動は、ある程度修正されていくこととなる。

(3) 馬紅梅の研究成果は以下のとおりである。馬紅梅は、ロシア極東地域の沿海州で暮らしている中国貿易業者の生活・労働環境の一端を垣間見、またロシアの移民政策の改定、特に2007年からの外国人による小売業の制限・禁止措置の極東の中国商人への影響について検討した。

中国の貿易業者は、ロシアにおける消費市

場のニッチなニーズを満たすことにより収益を上げることが可能であるため、短期間に金を儲けるために国境を越えている。中国人のロシア移入は人口圧力と高い失業率に起因している、というロシア人の一般的な認識と異なっている。沿海州市場での中国貿易業者の生活環境は決して安全なものではない。彼らは永久にロシアに住み続ける意志はなく、何年後かには中国に戻ろうと考えている。一方、沿海州における住民の多くは中国貿易業者の活動から利益を得ていることを認めている。移民に対する反感は、ある程度はロシアの現体制への不満、とくに汚職した政治家、官僚や警察が中国人と組んで私腹を増やすことに対する不満であり、自分たちが置き去りにされ、相対的に収奪されていると感じているからである。

本研究が現在進行形の問題を扱っているがゆえに、この3年間の間においても研究内容に様々な修正が加わった。ひとつは、2007年1月にロシアの移民関連諸法の改正が行われたこと、第二に、2012年のAPECサミットのウラジオストク開催に合わせ、本格的な開発プログラムが策定されたこと、によるものである。

本研究プロジェクトでは、それに対応し、2007年以降のロシア移民関連諸法の改正に合わせた調査を行い、一定の調査結果を出せたことは大きな成果であった。また、APECサミットに合わせたロシア極東開発プログラムに着目した研究成果をだせたことも、本研究の重要な成果である。

我が国は、ロシア極東地域と隣接し、長きにわたる交流をもちながらも、近年、瀟紙垂極東地域を専門とする研究者は少ない。本研究グループは、そうした我が国の地域研究の欠点を補い、また、状況の変化に合わせて新鮮なトピックを柔軟に含ませることで、特色のある成果をだすことができた。個別成果は、論文として、本研究プロジェクトに沿った内容となっている。馬紅梅や堀内賢志といった若手研究者の積極的な参加と成果発表は、我が国のロシア極東地域もしくは中ロ間地域経済連携の研究に携わる研究者の育成という意味でも一定の成果を上げたと考えている。また、本研究の総括的な成果は、本研究の研究代表者である堀江典生および研究連携者である大津定美が編者として加わっている『中ロ経済論』（ミネルヴァ書房2009年刊行予定）において公表される。

また、本プロジェクトが問題としている地域において研究成果を国際シンポジウムやワークショップ等において公表することにより、対象地域の研究者と深い交流を行うことができ、本プロジェクト以降の研究プロジェクトの作成において、その研究者ネットワ

ークが非常に大きな役割を果たした。

さて、ロシア極東地域における中国人脅威論は以前に比べ沈静化したものの、近年の中国経済の膨張とロシア極東地域の停滞は、この問題を常に再燃させる危険をはらむ。研究代表者は、本研究成果を基礎とし、ロシア極東地域の開発を、人口、移民、地域開発、地方財政の観点から考察し、加えて中国側国境地域の産業構造や貿易、さらに地域経済発展施策を視野にいたした対露関係分析を行い、より中ロ経済連携を総合的に研究するプロジェクトを形成し、平成21年度より科学研究費補助金基盤研究(B)「ロシア極東再開発の潜在力と限界：中ロ経済相互依存関係から見る諸課題」を開始した。これもまた、本研究課題の成果が生み出した新たな研究であると言える。こうした研究活動を通じて、短期的には2012年APECサミットに合わせたロシア極東開発の実行可能性、長期的には、ロシア極東経済の維持にとっての中国との経済連携の役割の評価を行うことで、より我が国のロシア極東地域の理解を深め、さらに我が国を会さない対岸地域での躍動する経済交流を見つめることで、将来的な我が国の対岸地域との経済交流を展望したいと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

Hongmei MA, Chinese Traders in Primorsky Krai in 2007. Far Eastern Studies Volume 7 pp. 81-98, 2008年、査読有。

堀内賢志「ロシアにおける地域政策の転換と極東地域開発の進展—地域発展省のイニシアチブを中心に—」『ロシア・ユーラシア経済—研究と資料—』1月号, No.918, 28~44頁, 2009年、査読無し。

堀内賢志「APEC開催準備に向けたウラジオストクにおける『垂直的権力』の強化」『ロシア・ユーラシア経済—研究と資料—』10月号, No. 915, 39~43頁, 2008年、査読無し。

堀内賢志「ロシア極東における地域開発の進展と中央・地方関係の展開」『ロシア・ユーラシア経済—研究と資料—』5月号, No.899, pp.16-29, 2007年、査読無し。

堀江典生「ロシアにおける外国人就労手続きについて」『えーじえっく・れぽーと』Vol. 44, pp. 29-38, 2007年、査読無し。

馬紅梅, Russian-Chinese Trade, Investment and Energy Cooperation: Mutual Interests and Mutual Distrusts, 『松山大学論集』第18巻6号, pp. 79-117, 2007年、査読無し。

堀江典生「ロシアにおける移民政策の転換と人間安全保障：ソフト・セキュリティ論の不安をめぐって」『環日本海研究』(環日本海学会) 第12号, pp. 1-16, 2006年、査読有り。

[学会発表] (計12件)

①堀内賢志「北東アジアにおけるナショナリズムとリージョナリズム」北東アジア学会第14回学術研究大会, 2008年9月27日, 山形大学。

②堀内賢志「ロシアにおける地域政策と『極東ザバイカルプログラム』の再改訂」, 仁川大学校東北亜経済通商大学・大阪産業大学アジア共同体研究センター主催「北東アジアにおける一層の経済連携を求めて」, 2008年9月18日, 韓国・仁川大学校国際会議室。

③堀江典生, Управление иностранной рабочей в России из Северо-Восточной Азии (ロシアにおける北東アジアからの外国人労働者管理)、科学アカデミー社会政治研究所国際学術会議「ロシアとベトナムとの間の移民：歴史・傾向・社会経済発展における役割」(ロシア科学アカデミー本部)、2007年11月29日。

④堀江典生, 「ロシアの外国人労働者管理と中露労働力移動」東アジア地域研究会第53回例会(京都大学経済研究所)2008年3月10日

⑤大津定美「北東アジアの国際労働移動—その特徴と問題点—アップデート」、大阪産業大学アジア共同体研究センター、ロシア科学アカデミー・太平洋地理学研究所主催国際シンポジウム『北東アジアにおける経済連携の強化』(ロシアウラジオストク市 アルセーニエフ郷土博物館)2007年9月9日。

⑥堀江典生, 「ロシアの外国人労働移民管理の課題」、大阪産業大学アジア共同体研究センター、ロシア科学アカデミー・太平洋地理学研究所主催国際シンポジウム『北東アジアにおける経済連携の強化』(ロシアウラジオストク市 アルセーニエフ郷土博物館)2007年9月9日。

⑦ 堀江典生, Russia's Labor Migration Management and Northeast Asia, 韓国外交通商部外交安保研究院=北海道大学スラブ研究センター共同セミナー「東北アジアの地域協力：ロシアとエネルギー要因」(北海道大学)2007年5月9日。

⑧ 堀江典生, GATS Mode 4 and Russia's Migration Policy, An International Conference for Economics, Business studies and Law, "Development of International Trading System:Prospects for Emerging Markets" St. Petersburg,

Russia、2007年3月1日。

⑨ 大津定美、「北東アジアの国際労働移動—その特徴と問題点」、大阪産業大学国際ワークショップ『北東アジアにおける経済連携の道を探る』（大阪産業大学梅田サテライト教室）11月3日-4日。

⑩ 堀江典生、「北東アジアから見たロシアの外国人労働者管理」、大阪産業大学国際ワークショップ『北東アジアにおける経済連携の道を探る』（大阪産業大学梅田サテライト教室）11月3日-4日。

⑪ 大津定美、Cross border labour migration in the North East Asia— some specific features compared with South East Asian case、The 11th British Universities Siberian Studies Seminar (BUSSS), A Multidisciplinary International Conference “Siberia and the Russian Far East: Past, Present and Future” 2006年9月11-15日(ロシア連邦ウラジオストク市)

⑫ 堀江典生、Russia’s Foreign Labor Management from Northeast Asia’s perspective、The 11th British Universities Siberian Studies Seminar (BUSSS), A Multidisciplinary International Conference “Siberia and the Russian Far East: Past, Present and Future” 2006年9月11-15日(ロシア連邦ウラジオストク市)

〔図書〕(計2件)

① 堀内賢志『ロシア極東地域の国際協力と地方政府—中央・地方関係からの分析—』国際書院、2008年。

② Хорие Норие、Задачи Миграционного Контроля Иностранной Рабочей Силы в России: О полядке приема высококвалифицированных кадров, Под. ред. Рязанцева С. В., Миграция между Россией и Вьетнамом: История, современные тенденции и роль в социально-экономическом развитии стран, МАКС Пресс、2007年。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

なし

○取得状況(計0件)

なし

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀江 典生 (HORIE NORIO)

富山大学・極東地域研究センター・教授

研究者番号: 50302245

(2) 研究分担者

馬 紅梅 (MA KOUBAI)

松山大学・経済学部・准教授

研究者番号: 40389193

堀内 賢志 (HORIUCHI KENJI)

早稲田大学・社会科学部・助教

研究者番号: 80329052

(3) 連携研究者

大津定美 (OTSU SADAYOSHI)

大阪産業大学・経済学部・教授

研究者番号: 20081119